

校長室から (N0. 6)

子供と「宝物」



靴はちゃんと揃って入っているかなと点検していた際に見つけたある男の子の下足箱。おやっと思い、靴を除けてみたら、小枝や葉っぱが置いてありました。

一瞬どうしようかと思いましたが、その子の顔を思い浮かべました。

校庭のどこにでも落ちている小枝や葉っぱでしたが、その子にとっては、何か意味のある特別なものなのです。

そう言えば、今日の朝も私の顔を見て「宝物探してくる！！」と駆け抜けて行きました。

この子の目に映っている世界は、大人には分からない、面白くて仕方がないもの、わくわくするようなもので満ち溢れているのだということは、確かです。

大切に育てたい感性であります。

下足箱の様子を担当に知らせ、二人で目を見合わせて、にっこり。この子の理解をまた一つ深めることができ、うれしかったからです。

下足箱は、そっとそのままにしておくことにしました。